

第4回ファイアサイド・ディスカッション

「死生観」さらに勉強していきたい

11月2日、西宮市立勤労会館で「死生観を論じる」をテーマに第4回ファイアサイド・ディスカッションを開催。伊賀幹二先生(西宮市・伊賀内科・循環器科)と岡本知之牧師(西宮市・西宮教会)が講師を務め、医師11人が参加した。参加者からいただいた感想文を掲載する。

前半は伊賀内科循環器科の伊賀幹二院長から、最近の患者さんや家族の方々の



伊賀先生(右)と岡本牧師(左)が死生観を語った

「病気の治療」や自分や自分の家族が余命幾許もないと宣言されたときに「残された人生をどう生きるか」の選択が多様で判断が難しく、世間の医療に対する考え方も急激に変化してきていることを、事例も含めて説明されました。後半はプロテスタントの牧師で臨床心理にも詳しい日本基督教団西宮協会の岡本先生にプロテスタント神学からみた「スピリチュアルペイン」と「患者さんへのアプローチNBM(ナラティブ・ベースド・メディスン)」について講義をうけました。

医学が高度に進歩したがために、実地臨床では種々の問題が出現してきました。たとえば、終末期の患者さんに治療をどこまで続けるのかということ、認知症が進行した時の医療側の対応、食べられなくなった時に「胃瘻」を増設すべきかどうかということ、明らかに限界であろうという人に挿管、人工呼吸、高カロリー輸液をして集中治療室に治療することの意味も含めて、複数の事例を提示されました。僕が意を同じくしたのは、最近「患者―医師関係」の構築維持が難しくなったことです。在宅医療に携わる自分としては、医師は自分なりの

第30回漢方研究会

「痛み」を六つの作用(武器)に分類する奥義的なお話

11月9日、西宮神社会館で「痛みと漢方六つの兵法」をテーマに第30回漢方研究会を開催。井上隆弥先生(灘区・井上クリニック)が講師、川崎史寛先生(西宮市・川崎医院)、長光由紀先生(伊丹市・ウイング調剤薬局)が司会を務め、医師・薬剤師ら65人が参加した。参加者からいただいた感想文を掲載する。

11月9日、西宮神社会館にて、井上クリニック(灘区)院長の井上隆弥先生による「痛みと漢方六つの兵法」の講演を拝聴させていただきました。長年の経験にもとづく精力的なお話で、2時間



講師を務めた井上先生

があつという間に経過していました。

一般的な痛みに対する考え方、あるいは対応についてとしながら、全ての病態に於ける奥義的な講義を、豊富な経験より症例提示していただきました。ウィットに富んだスライドを、夜の寒さを吹き飛ばすような熱い語り口での講義でした。

特に、臨床使用時に①温める、②冷ます、③末梢循環を改善させる、④ストレスを和らげる、⑤むくみをとる、⑥体力をつける、という六つの作用(武器)に分類され、それぞれに有効な生薬や、その組み合わせによる漢方処方名についてのお話は、とても分かりやすく、明日からすぐにでも処方してみようと勇気づけられ、元気をいただきました。帰路につくことができました。

最後に、このような勉強の機会を作っていただいた保険医協会と榊ツムラのみなさまにお礼を申し上げます。

【灘区・金沢病院 高田耕二】

死生観を持ちながらもチーム(本人、家族、ケアマネ、ケースワーカー、看護師、医師)皆で協議して治療方針を考えていくしかないかなと感じています。

後半の岡本牧師の話ではWHOの提唱している人が感じる四つの痛みの内の一つ「スピリチュアルペイン」の意味の説明を講演の導入として、人と神の関係性の中で定義される「霊性」の意味を詳しく教えてもらいました。

「スピリット」(ヘブライ語でルアーハ)とは聖なる「神の息」という意味で、それを人間の「ソウル」渴き飢えたる魂(ヘブライ語ではネフシユール)が「神の息」により満たされ癒されるとされています。そういう意味では本来多神教的な日本社会では、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教のような一神教の世界観を持つ人たちに比べ、この「スピリット」という意味が「霊性」といわれた時にシククリ納得できないのかもしれない。またこの言葉は現在の日本では「終末期医療」だけに限定されている感がありますが、本来は壮健期を含めた全人的、全生涯的ケアの意味であります。

さらに印象に残った言葉に「人格」の定義とNBMがあります。NBMは緩和医療の世界ではかなり重要視されています。まず患者さんの気持ちを「傾聴」し、その人の人生を「受け入れ」、そして医師として医学的に鑑別診断治療法を患者さんや家族と相談し選択するというアプローチです。その「物語るアプローチ」の中で「キュアからケアの変換期」が訪れたときに、その人の人生に実存的な意味を与える意味での「大きな物語」への取り組みと、その人の「死」を「物語の完成」として「看取る」ことは常に「宗教的」かもしれません。

最後に「人格」とは「他者との応答性の中で存在する」、つまり他者と自己との中間点に存在するのが「人格」であるとのことでしたが、非常に哲学的で、これも含めて「死生観」をさらに勉強する必要があります。

【長田区・番町診療所 松岡泰夫】

会員忘年会

日時：12月28日(土)18時

会場：『木曾路』西宮店

※阪神西宮駅から北へ徒歩5分

JR西宮駅から西へ徒歩10分

定員：30人 先着順・事前申込制

会費：6,000円(当日徴収)

※フリードリンク付き

◆お申込みは協会事務局 078-393-1803 まで